

## 平成29年度 第1回総合教育会議 要旨

日 時： 平成30年2月28日(水) 午後4時～5時30分

場 所： 市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員 仲田市長、里見教育長職務代理者、井口委員、  
石井委員、浦崎委員、

事 務 局 大西副市長、西本教育長職務代行者、藤原参与兼企画調整  
課長、降松教育政策課長、横田学校教育課長、生田学校教育  
課特命課長、坂田企画調整課副課長(学校教育課副課長)、  
能出教育政策課主査、藤原企画調整課主査、竹谷

傍聴人の数：7名

### 1 開会、あいさつ

(仲田市長)

- ・ 本年度、第1回目の総合教育会議であり、私が就任して初めての会議でもあるため、改めて教育に対する思いを述べさせていただく。
- ・ 市長就任前の県会議員時代から、とりわけ教育に対しては強い思いを持ってやってきた。政治をするのも人、世の中を作っているのも人であり、人づくりこそが優先すべき課題であるとの思いで取り組んできた。
- ・ 先日の市議会での施政方針でも述べたが、「教育環境の整備・充実」という方針では、大きく分けて2つのことを考えている。ひとつが教育における格差の是正、もうひとつが教員の資質向上である。
- ・ 教育の格差には、地域格差と、経済格差の2つがある。
- ・ 地域格差は、例えば、県内の郡部では、塾に行きたくても行けない所もある。そういう所では、タブレットを配付する仕組みもできている。
- ・ もうひとつは経済格差。勉強したくても家庭の環境によって勉強に取り組めない場合もある。私は、公教育の使命は、学力の底上げを図っていくことだと考えている。貧困の連鎖ということが言われているが、例えば、親の収入と子どもの学歴が比例するということもある。その格差を公教育の使命として、是正をしていきたいと考えている。
- ・ また、市がすることではないが、市内でも2か所、子ども食堂がある。そういう場所に、例えば、将来先生をめざす学生や教員OBの方が、無料で勉強を教えるような仕組みも、民間主導でできればと思っ

ている。

- ・ もうひとつが教員の資質向上である。私も、これまでいい先生に巡り合えた経験があり、教員に対しては高い期待を持っている。教職員こそ聖職だと考えている。勉強を教えるのはもちろんのこと、それ以上に人間として魅力のある先生になっていただいて、そうした先生にたくさんの子どもを教えていただきたい。
- ・ そのためにも、教員の多忙化がよく言われているため、それを解消する仕組みを教育委員会と一緒に考えていく必要があると考える。
- ・ もうひとつが、これからの学校の適正な規模のあり方についてである。市内には、小中学校と特別支援学校を合わせて25校あり、これから人口が減少し、三木では8万人弱の人口が2060年には4万人くらいになるだろうと予測されている。それを、何とか5万人くらいに維持しようというのが三木市の地方創生計画である。
- ・ 人口が減少し、その人口に占める子どもの割合も減少していく。これをいかに抑えていくのかということが大事だが、一方でそれに対応した方法も考えていかなければならない。地域における学校のあり方もそうであるし、集団教育ということも考えていかなければならない。
- ・ 本日は、学校環境のあり方について、志染中学校と星陽中学校の校区の方を対象としたアンケート結果から見える課題を抽出し、今後、市としてどのように対応していくのかを考えていきたい。

(事務局からの資料説明の後、協議に入る。)

## 2 議事

(生田学校教育課特命課長)

- ・ 資料1～3、参考資料1～11頁に基づいて説明。

(仲田市長)

- ・ 事務局の説明を聞くと、資料3の結果分析に集約されていると考える。2～3クラスが良いと考えている人が多いこと、地域住民の方より保護者の方が不安が高いこと、新たな方法で進めて欲しいが、慎重に判断したいという人がいることが伺える。
- ・ 教育委員の皆さんのご意見をお聞かせいただきたい。

(石井委員)

- ・ 私にも子どもがおり、保護者の悩みは自分と同じところにあると感

じた。

- ・ 今後どういう環境であれ、子どもたちに選択肢が欲しいというのが保護者の願いである。子どもたちが成長していく中で自分の居場所というものを考えた時に、この中では居心地がいいけれども、そのまま居続けるのがいいかどうかは、子どもには分からないと思う。長い目で見ると、社会に出た時に色々な経験を積んで、自分が良かったと思うのは、ここに居たら辛いけど、違う場所に行ったときに自分の居場所があるからである。それは、選択肢があるからできることであり、満足しているからその場に留まることがいいのかということとは、違う話だと思う。
- ・ 小規模だから悪い、大規模だから良い、という観点ではないと思う。小規模の学校を統合するという考え方もあるが、校区の見直しも視野に入れながら、通学しやすいという観点から見直すというのも良いのではないかと思う。

(浦崎委員)

- ・ アンケートの回収率が低いのではないかなと思った。これが全ての意見だとは思いたくはない。地域の方々も、色々な思いを持って書いておられると思う。
- ・ 私たちの世代は、たくさんの子どもの中で揉まれて育ってきた。私は、1学年200人以上で、全体で600人以上居た中学校で育ってきた。私は野球部でしたので、他人よりも早くレギュラーになりたいという思いで、競争力や努力心、根性、勇気というものを養ってこれたと思っている。基本的には、そのような環境に子どもたちが居れたらというのが一番の思い。
- ・ だからといって、今ある学校を2つを1つにするとか、3つを1つにするという単純な統廃合では、今後また見直さなければならない時期が来てしまう。例えば、吉川中学校は、中吉川中学校、上吉川中学校、東吉川中学校が60年前に1つになった。現在の吉川中学校は約160名となっており、私の時と比べると500人近い生徒が減少してしまっている。これからの三木市の教育、地域格差を無くしていくのに、一部だけを考えるのではなく、全体を考えていく必要がある。

(仲田市長)

- ・ 志染中と星陽中を安易に一緒にするというのではなく、市全体で考えるべきではないかという意見であったと思う。それと合わせて、校

区の見直しも必要ではないかということ。

- ・ 先ほど、回収率43%という意見があった。私が地域の方から聞いた話を紹介させていただくと、子どもはすでに卒業しているので、こんな大事なことについて無責任なことを回答できないため、あえてアンケートは書かなかったというものであった。

(井口委員)

- ・ 私は、学校再編について、以前は時期尚早ではないかと言っていたが、このアンケート結果を見ると、時代の趨勢、機運が熟してきたのではないかという考えを持っている。
- ・ このアンケート結果を見て思ったのは、環境が良いだけではだめだということ。これから教育改革がなされて、大学受験が変わってくるし、小学校から英語も入ってくる。そして、みんなと意見を交わし、討論をしていくというような授業も展開される。そうすることによって、自分がたくさんの人々の中で、どのような考えを持つかという自立心も目覚めてくると思う。
- ・ 特に私が注目したのは、資料2の自由記述。特に、7、8、12。志染中と星陽中だけを考えていても、小規模の課題は解決できない。したがって、市全体として学校環境のあり方を考えていこうということ。さらには、慣習や感傷、ノスタルジア等に引きずられず、新しいものを作っていかななくてはいけないというように考える。

(仲田市長)

- ・ 母校が無くなるのは寂しいという親もあるが、子どものことを考え、市全体で考えていく方向性であると思う。
- ・ 色々な場所で市民の方とお話をする機会がある。以前、吉川地区でPTA活動をされている方とお話をした。個人的な意見であったと思うが、なぜこんなに子どもが減っているのに、学校を統合しないのですかと言われた。私は、学校を残してほしいという意見なのかと思っていたが、子どものことを考えたら、そのような時代ではないですか、という意見であった。

(里見教育長職務代理者)

- ・ 前市長の時に教育大綱を作った。今まさに進めようとしている適正規模、適正配置については、学校の規模の問題である。
- ・ 教育大綱は平成27年に策定され、5年間の大綱となっている。そ

れには、三木の教育の基本的な大きな方向性が掲げられている。そのような点からみれば、教育環境のあり方については、その中の一部である。私は、新しい市長になられたので、新たな総合計画も策定されるということも聞いているが、統廃合の問題という具体的な課題で今後議論する必要があると思う。

- ・ そうすると、市がもっと人口を増やす施策をしたらどうかと思う。これは、総合計画と大きくかかわってくることだと思う。
- ・ 少人数の学校だから統廃合しようとか、義務教育学校にしようとか、色々な選択制というものもあるが、人口が増えないという大前提で議論を進めようということになる。
- ・ 前市長は、中学校は統廃合を考えるが、小学校は、平成27年からの5年間は統廃合をせずに、その間に検討しようということであった。小学校について、これから議論になるかもしれないが、その問題もあるということでは終わっていた。
- ・ とても大きな問題で、小規模校だけのことを考えていいのかどうか。また、財政的な面で考えれば、50人規模の学校と400人規模の学校とでは、おそらく生徒1人当たりの教育経費は3倍から4倍異なってくると思う。
- ・ もし、統廃合をすれば、廃校になった跡地の活用も考えていかなければならない。
- ・ 統廃合すれば、廃校になった跡地などをどのように経済効果を出すかなど、プラス面、マイナス面を考えないといけないが、どのように進めていくか、資料3に環境整備の進め方とあるが、教育環境整備だけではなく、全体として並行してやっていただきたい。

(仲田市長)

- ・ 確かに教育大綱については教育委員会とも協議し、調整した上で、策定するとなっている。現計画は31年までということになっているが、人口減少を前提とした計画であり、来年度から総合計画を策定する予定であるが、人口は減少していくと思われる。その中で教育大綱を並行して考えていくということで、教育委員の皆様にもご理解、ご協力をいただきたいと思う。
- ・ 仮に統廃合をすると、跡地の問題等出てくる。大きな問題であるので、もっと広い視野で考えていくべきと重々承知している。広い視野で考えていく中で、教育大綱も作っていく。その中で子どもたちのことを三木市全体として考えていく。

(石井委員)

- アンケートや資料の中で、スクールバスというのが出てくる。もし、選択制になったとき、通学距離が長くなると安全面で不安である、という意見が保護者や地域の方から出た。私としては、スクールバスだけではなく、市民が使う一般のバスのルートなども含め、見直しが行えると思う。本数を増やして誰でも利用できる、学生も地域の方も同じように利用できるような形にすれば、あえてスクールバスという形にしなくてもできる可能性など考えてみたいと思う。
- 今まで三木市が取組んできた、人の目の垣根隊のように、子どもたちを見守る顔見知りの環境というものが、もし、小学校を含めて環境を検討するとなると、今後どうなるのかと思う。地域のコミュニティが、小学校単位で活動しているので、校区が見直しになったとき、地域と子どもたちの関わりがどう変化していくのか不安でもあり、期待する要素は何か、そこも新しい方法を考えていかなければいけないのではと思う。
- 不安ばかり考えていては前に進めないなので、今までと違う形で子どもたちを見守っていける方法を考えていってほしいと思う。

(仲田市長)

- 確かに垣根隊の活動については、今は、市内に10地区あるが、仮に小学校、中学校の統廃合があれば、地域との関わりも変わってくる。非常に大事な問題であるので、地域と十分に話し合っていかなければならないし、先程もおっしゃられたが、マイナスにばかり考えていても仕方がないので、プラスに考えていきたいと思う。
- スクールバスのあり方については、市長に就任してから広域公共交通網の整理も考えており、県議会で建設委員をしていたときに、公共交通のあり方をいろいろ議論させていただいたことがある。一般的には混乗ということで、スクールバスに一般の方も乗ってもいいのではないかという議論もあるし、おそらく、しようと思えばできると思う。
- 私が記憶しているのは、瑞穂小学校が廃校になったときに、混乗を考えられないかという意見があったと思うが、当時の保護者としては、仮にスクールバスに一般のどのような人が乗ってくるのか分からないという不安の声があり、スクールバスになったということを知ったと思う。

(西本教育長職務代行者)

- ・ そのとおりです。

(大西副市長)

- ・ 当時、議論があったときに、反対の意見が多かったということで断念したという経緯がある。今、委員ご提案の件は、路線バスに児童を乗せるということだが、それは一般のバスに児童、生徒が一般の乗客として乗るということなので、問題はないと思う。

(石井委員)

- ・ その際に、アンケートの記述にもあるが、保護者の立場で申し上げて申し訳ないが、公的支援は必ず必要になってくると思う。環境を変えてしまったがゆえに、保護者の負担が増える、子どもたちの負担が増えるということになっては、逆効果になると思うので、私が意見を述べるに当たり、公的支援は必ず必要ということで条件付きでの意見を申しあげたいと思う。

(仲田市長)

- ・ おっしゃるとおりだと思う。公的支援は、必ず要ります。

(浦崎委員)

- ・ みっきいバスやコミュニティバスなど、お年寄りの方も含めた地域の方にとって、便利になるように、市が対応していると思う。かなり努力をして、色々と見直しもしたり、時刻表の変更などをして活用されている。アンケートの中にもあったが、子どもの登下校の中の安全という面でスクールバスは重要だと思う。
- ・ 活用や充実は重要だと思うので、安全確保はしていかなければと思う。

(仲田市長)

- ・ おっしゃるとおりだと思う。

(里見教育長職務代理者)

- ・ 今の議論もそうだが、やはり2クラスから3クラスがいいという意見や、1クラスの人数が20人から30人がいいという意見、これが大きな方向と考える。それと、43%の回収率(アンケート)、なかなか

か遠慮して出さなかったという方もおられるし、我々はこれで大きな方向を掴んだらよいと思う。

- ・ 文科省の「学校の適正規模・適正配置の関する手引き」には、統廃合についての考え方が示されており、学年1クラス以下の学校は統廃合を早急に検討する必要があるとしている。ここで重要なのは、1クラスなら本当に問題があるのかどうかを協議すること。統廃合を進めるときに、1学年2クラス以上にすると、1クラスでは教育上だめだと言ったことになってしまわないかと思う。確かに人数が多い方がいいから進めているのであるが、もし、少人数のほうがいいのかという結論に至れば、その対策を三木市が行っていく。その判断を今後、市長、教育委員会事務局、我々で協議していくことになる。
- ・ 生徒数が少なくなり、寂しく思う。今後どう検討していくのかが大切である。

(仲田市長)

- ・ 確かに、国は小学校は2～3クラスを適正規模とし、1クラスになったら早急に対策を検討するという方向を示しているが、それを改めて整理する必要があるのではないかと思う。
- ・ 私は、小学校6年間、学年1クラス、40人の小学校で過ごした。中学になると私の学校が40人、もう一つの学校が200人の240人というところだった。
- ・ 今思うのは、6年間同じ40人、それが当たり前とっていた人間として、それは何も不自由はなかった。ただ、少し学校を休む子がいれば、人間関係が固定化してしまうため、その後ずっと休んでいた同級生がいたという記憶がある。
- ・ 経験者としてのひとつの参考意見としてお話しさせていただいた。どのように進めていくかにしても、本当に1クラスがだめかという議論もしていく必要があると思う。

(浦崎委員)

- ・ 三木市だけではなく、人口が減少していくところは多々あり、各市町村は頑張っている。市はまちづくりを積極的にやっており、住民の方にも、もう少し関心を持っていただきたいとの思いを持っている。
- ・ 今、吉川町でまちづくり協議会の一員として、積極的に参加し、自分の思いは伝えているつもりである。方向性としては、2クラス、3クラスあったほうが、人としていろんな形で交流も深められるだろう



し、切磋琢磨できるのではないかと考える。参考資料4を見ると、どうしても吉川地区の学校に目が向いてしまう。上吉川小学校は、2年と3年、4年と5年が複式学級で、全校生は32名。昨日、吉川地区4校合同の人権学習に行ってきたが、6年生は4校で36名である。その児童が吉川中学校へ全員進学しても、学年は1クラスになる。

- ・ 地域の方から、吉川地区のことも積極的に考えていただき、三木市をもっと元気にするようなことを考えてほしいと言われており、私もそう思う。

(仲田市長)

- ・ 例えば、こういうアンケートの回収率の数字は、仮に学校の環境整備、統廃合ということが正式に決まっていけば、また高くなるのではないかと思う。一概に数字については、いろんな取り方があるのだと理解をさせていただきたいと思う。
- ・ 星陽中と志染中でアンケートを行い、中学校から学校環境のあり方というのが、もともとのアンケートの趣旨であったと思うが、いろんな意見を聞いていると、地域の学校の規模だけではない。地域の環境、小学校との関係や集団教育とか、子どもの競争、また保護者の思い、総合的に考えていく必要があるのではないかと思う。
- ・ 皆様のご意見を聞いていると、市全体で総合計画や教育大綱も含めて考えていく必要があるという方向と思うが、いかがか。

(里見教育長職務代理者)

- ・ 今、市長が小学校も考えていかなければいけないと言われたが。

(仲田市長)

- ・ 参考資料の11ページを見ていくと、私も小学校を含めて検討をしていくべきではないかと考える。ただ、地域の方々と十分な意見交換をし、話を聞きながら進めていくべきと思う。

(石井委員)

- ・ アンケート結果では、地域住民の方と保護者の方の差がある。地域住民の方は、住んでいる地域に学校が無いと地域が衰退していくのではないかと不安があると思う。ここの差を埋めないと、小学校の話に踏み込んでいけないと思う。話し合いの場を持つのであれば、地域の方と保護者の方をまず交えて、もちろん事務局も入り、そういう場

を頻繁に持つことが必要と思う。

(仲田市長)

- ・ 私も同意見であり、小学校を検討に入れるにしても、地域住民の方と保護者の意識のずれがあるので、きっちり議論し、意見交換をしっかりとさせていただかないと、話が進まないと思っている。

(井口委員)

- ・ 私は、元来複式学級は良いことだと考えている。
- ・ そういう学校で勉強してきた人で、後々は頭角を表し、立派になられている方もおられる。しかし、国は、たくさんの人の中や、たくさんの友だちの中で意見交換をできる機会を小さい頃から持つことで、社会に出たときに議論ができる人を育てようとしている。そういうことを考えると、小さいうちから議論ができる環境を作ってあげるのも良いのではないかと思う。

(仲田市長)

- ・ 1クラスが本当にいいのかどうかを含めて議論していかなければならない。地域住民も巻き込んできちっと議論をし、その上で、小学校も含めて、検討を進めていくというのが、今みなさんの意見をお聞きしていると、そういう方向性と理解をさせていただいたが、よろしいか。

(里見教育長職務代理者)

- ・ 全体の大綱を決めるときに、小学校を統廃合の範疇から外したというのは、まちづくりと地域の歴史、学校と地域の関連性などから、そういう議論に入ることができなかったという事実もあったと思う。今、こうして全体的に考えなければいけないとなると、まちづくりと一体で考えていく必要があり、そのことを総合教育会議で議論し合うということは、素晴らしいことだと考える。
- ・ 教育委員会だけでは考えられないので、事務局も地域の皆さんも含め、一緒に考えていかないといけないと思う。

(仲田市長)

- ・ 教育委員会だけで考えられるものでもなく、市長部局も教育委員会も一緒になって考えていくべきではないかと思う。いずれにせよ、議

論を進めていくに当たり、教育委員会も事務局も入り、保護者の皆さんだけでなく、地域のみなさんも入って市全体で小学校も含め、総合的に考えていくという方向で、今日はまとめさせていただく。

- ・ 事務局から、今後のスケジュールについて提案がある。

(生田学校教育課特命課長)

- ・ 参考資料 1 3 頁に基づき、今後のスケジュールについて提案。

(仲田市長)

- ・ 来年度、早い時期に総合教育会議を開催し、協議を進めていく。
- ・ 本日は、これにて閉会する。